平成25年度　学校評価総括表　　伊丹市立西中学校

教育目標	確かな学力と豊かな心を持ち、健康でたくましい生徒の育成を図る　　～知育･徳育･体育･食育の調和のとれた人づくり～
重点目標	(1)基礎・基本の学力と、よりよい学習習慣の定着を図り、自ら考え学ぶ自己学習力を育成する。 (2)日々の生活や行事を通して、集団としての質を高め、よりよい生き方を求める人間を育成する。 (3)基本的生活習慣を確立し、健康な体、体力の向上、望ましい食習慣を育成する。

項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	基礎・基本の徹底と、授業改善	・基礎的、基本的な知識・技能を習得する。 ・授業力の向上と授業の改善をめざした校内研究会を実施する。 ・小中連携を進める	・教職員全員が授業細案を作成し公開授業を行う。 ・スモールステップの学習に努め、復習演習の時間を確保する。 ・学習状況調査の分析結果を各小学校に提供する。	・生徒アンケートにおいて「授業は、わかりやすく楽しい」と回答した割合が80%以上になる。また、「先生は事前に評価の仕方を説明し、学習の成果を適切に評価している」と回答した割合が85%以上になる.。 ・わかりやすい授業を行う。	B	・教職員全員が授業細案を作成し、授業公開を行うにあたり、教科内での指導案検討や研究協議を行い、授業力の向上に努めた。 ・学習状況調査の分析結果を速報(概要)で保護者に知らせると共に本校ホームページに掲載した。 ・小中相互の校内研究会に積極的に参加した。 ・「授業では、学習内容が理解できて楽しい」と回答した生徒の割合が57.2%にとどまった。	・授業内容を精選し、復習演習の時間をさらに確保する。 ・スモールステップの学習に努め、基礎学力の定着に尽力し、よりわかりやすい授業を展開する。 ・4/24，25予定の学習到達度調査のデータを、各教科で授業改善に生かすため、5月中に各教科部会で方策を練る。 ・3学期に学力検査の過去問等（良質な問題）を演習として授業で行う。 ・学生サポーターの活用を図る。	・「授業では、学習内容が理解できて楽しい」という設問に対して、肯定57，2%であることに注視したい。学校の課題として捉えていることを理解した。80%以上となるよう望む。 ・教科毎に上記内容を問うことも一考である。理解と楽しいが合致するのは難しいのではないか。「授業が楽しい」と記す内容を絞って回答を求めると割合は上がる。 ・学習習慣に対する生徒本人たちの認識については、上級学年ほど内省し、自己に厳しい回答になる。自立が進んでいると捉えられる。 ・基礎基本と応用は両輪である。学力向上について、思考力を深める学習形態を導入した反転授業をタブレット利用によって進める先進校がある。基礎学習を一定家庭で行うという方法である。
	思考力・判断力・表現力の育成	・思考力、判断力、表現力を育てる授業を展開する。 ・読書活動を充実させ、語彙力の獲得を図る。 ・生徒、教職員ともに表現力を伸ばす。	・日々の授業に、思考を深める学習を位置づけるためにグループ討議や発表場面を取り入れる。 ・ICTを活用した授業を行う。	・表現力に富んだスピーチができる。	B	・前に出て発表することに対して、抵抗なく発表することができる。 ・一問一答の発問には積極的に挙手する。 ・思考を深めた内容の発表では、積極性に欠ける。 ・ホワイトボードの活用等は定着し、思考のまとめや発表の補助に役立った。	・教材教具を活用し、発表しやすいように工夫をする。 ・グループ活動を効果的に取り入れるとともに、情報機器を活用して言語能力の向上を図る授業作りを行う。。	・授業参観の印象であるが、大方の教室では、説明を生徒に伝える一方通行的な展開が多い。思考力を深める授業を日頃から数多く実践願う。 ・教師が全国学力調査をやってみて、具体的にどのような学力を求められているかを知ることが大事であり、日常の授業指導改善に生かすことになる。
	学習意欲の向上	・授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。 ・家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。	・シラバスを有効活用する。 ・独りで知識を吸収できる力をつける。 ・学習習慣を定着させるために携帯・スマホの所持率を小中の連携により、減少させる。	・生徒アンケートにおいて「自分は授業で積極的に発表しようとしている」と回答した割合が70%以上になる。 ・スマホの所持率を市内平均より20ﾎﾟｲﾝﾄ下回る。	B	・生徒アンケートにおいて「自分は授業で積極的に発表しようとしている」と回答した割合が70.9%となり目標が達成できた。 ・2年生入学時からの呼びかけで46.2%の所持率となり、市内平均を28ﾎﾟｲﾝﾄ下回った。(所持率：市内74.3%，全国64.5%) 学力向上策として有効であり、トラブル未然防止のため家庭の協力が得られている。	・本校の研究テーマである「表現力の育成」効果が表れていると思われるので継続して研究を進めるべきである。 ・家庭学習の充実を通して、意欲を増進させ、授業で活躍できる場面をつくる。 ・全校生徒対象のスマホ等通信機器の講演会が効果的だったと思われるので、今後も生徒と保護者にむけた講演を継続して行い、安定した生活習慣を基盤とした学力向上に努める。	・ペーパー上得点アップのため学力優良な地域もしくは向上した地域（秋田、石川。高知、香川）は過去問を行っている。
豊かな心・健やかな体	自尊感情の育成	・生徒と教師間の信頼関係の構築 ・学級経営の充実。 ・基本的生活習慣の確立。 ・規範意識の向上を目指した指導を行う。	・職員間で、職員朝礼時に情報交換を行い、その日の称賛的生徒指導に生かす。 ・小学校に出向きあいさつ運動を行う。 ・Ｑ－Ｕの実施。 ・道徳ﾛｰﾃｰｼｮﾝ指導の実施。 ・総合的な学習の時間にきょうだい学級での取り組を取り入れる。 ・グループ編成した生徒たちが小学校を訪問し、英語の	・生徒アンケートにおいて「自分を大切にすることや他の人への思いやり」について、前年度74%を上回る。 ・保護者の回答で我が子の自立心の向上と品位を備えて成長したと捉える割合を80%以上にする。	A	・道徳ローテーション授業で担任ではない教師が道徳授業を行うことで生徒との信頼関係を構築することができた。 ・職員間で生徒についての情報交換を行い、多面的に生徒理解に生かして自尊感情の育成につながげた。 ・きょうだい学級での取り組みでは上級生が下級生のお手本となり自分たちの役割を果たすことで自信につながることができた。 ・Q-Uを実施したが、データを分析し、生徒達の成長につなげることができなかった。 ・道徳ローテーション授業の中で生徒の規範意識が向上できたかどうかを検証するまでには至らなかった。	・4月実施のＱ－Ｕの結果を基にして学級経営についての研修会を行うとともに、ﾓﾃﾞﾙｸﾗｽを協議し実際の変容を追究する。10月に2回目Ｑ－Ｕテストを行い、検証する。 ・道徳ローテーション授業では研修などを通して、指導案を共有し意見を交換する。	・Ｑ－Ｕは継続することで、年度内活用に加えて、経年でもデータを利用できる。個人がどうなっているのか分かる。 ・道徳ローテーション授業の効果について理解した。一つのテーマについてスペシャリストとして指導し、道徳授業の質の向上。複数教員による生徒理解と指導技術の向上、チーム体制構築が学級経営に強く参画する機会となる。
	体力の向上	・自ら進んで体力を向上させようとする生徒を育てる。 ・保健管理の啓発による丈夫な体づくりを行う。 ・校内の事故防止に努める。 ・食に関する指導に取り組む。	・保健委員会を開催し、PTAと連携した体力向上効果を目指す。 ・保体委員を通して健康管理の啓発を行う。 ・毎時補強運動を行う	・スポーツテストにおいて伊丹市の目標指数が、昨年度を上回るために、体育授業や課題活動を計画に進める。	B	・学校から保健だよりを配布したこと等も起因し、健康管理や体力向上に意識を持たすことができた。 ・伊丹市スポーツテストの結果も昨年の結果より上回り、中2は市内1位である。 ・持久走では授業プログラムを構築し成果をあげ、精神力向上についても好影響が認められる。 ・食に関して学校保健委員会で、「聞いて得するお弁当の話」の講話を聞き、カロリー摂取や腐敗について学んだ。 ・課題としては全教員で取り組むシステムを作る。 ・平成25年度卒業生178名中皆勤賞受賞者が48名であった。	・学校保健委員会だけでなく、全生徒を対象とした健康講話の実施。 ・スポーツテスト実施時に最高記録の掲示を行い、さらにモチベーションを上げさせる。 ・全国体力調査における握力，上体起こし，前屈(柔軟性)3種目について強化する。	・特に持久走については、プログラムが構築されており、全国値に比べて、かなり優位な記録となっている。 ・生徒が主体的に体力向上に励んでおり、精神的にも粘り強さが養われている。市内トップを堅持願いたい。

開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	・積極的に学校情報を発信する。 ・PTA活動と協力して取り組む。 ・信頼感の醸成を基盤とした家庭・地域と連携をすすめる。	・携帯所持率と成績結果の相関を分析する。また、携帯・スマホに関する講演会を実施する。 ・学校だよりの発行やホームページの更新を積極的に行う。 ・生徒会などを通じて、ボランティアを募集し、地域の行事などに積極的に参加する。 ・土曜オープンスクールには、小5・小6の保護者にも来校を願う。また、学校補導連絡会開催時には、地域で健全育成に関わる方々の授業参観を行う。 ・PTA企画委員会で教員のスピーチを行い、教職員とPTA役員との顔の見えるよりよい関係づくり。	・情報発信を継続する。 時々、ホームページにアクセスする家庭を40%以上を目標にする。 ・地域の方々と生徒、職員が地域と学校間で双方向の活動が行われている状況を継続する。	A	・ホームページ閲覧家庭は約45%以上となり、目標の40%を上回った。 ・ホームページは適宜更新し、常に最新の情報および事前情報を発信した。 ・学校通信や学年通信など連絡文書を約80%の家庭で読まれた。 ・約77%の家庭が家庭、学校、地域の連携が適切に行われていると感じていた。 ・携帯・スマホに関する講演会には小中の保護者、教員、関係機関も含め多数参加した。 ・学校補導連絡会で授業公開を同時に行い、地域の方にも授業参観をしてもらった。 ・夏休みの登校日には、生徒が清掃活動をしながら登校し、地域貢献した。	・1、2年および小学校の保護者にも、進路に関する情報を適宜発信していく。 ・生徒から保護者に連絡文書が適切に届けられるよう指導や保護者に協力を求める。 ・生徒会だけでなく、ほかの生徒も地域活動に参加できるよう努力する。 ・ホームページを小中学校の連携に活用するとともに、教育活動の記録として、教職員の振り返り資料としても活用する。 ・オープンスクールの開催については、校区小学校保護者への案内を中学年(3，4年)まで広げることを検討する。	・地域に対して積極的なボランティア活動に関する姿勢がよい。これは生徒の育ち、学校生活の状況が良好であることに通じている。一事例だが、通例大学生が行う各市町のゆるキャラ着ぐるみを身につけた阪神地区オータムフェスタでも中学生が大活躍して関係者からは好評であった。 ・

学校関係者評価総括

目標、成果、課題、改善策の記述において数値化されていることがよい。明確に学校経営の方向が見えている。学力向上策も一定成果がでており、今後も進めようという学校体制が理解できる。将来、各種IC機器等ツールを活用できる人材育成という視点も考慮しなければならない。

次年度に向けた重点的な改善点

継続して教師、生徒、保護者との信頼関係づくり、学力向上（家庭学習の充実）、授業力の向上、業務改善（ノー残業デー（定時退勤日）、ノー部活デー）を進め、授業や他活動の準備を念入りに行う。生徒一人ひとりの育ちがともなった各教育活動の達成度向上を目指す。学習状況の充実に関することでは、授業内容の理解について生徒たちの満足感と教員自身の授業達成感の間の大きな乖離を縮減しなければならない。教員は自らの指導を厳しく振り返らなければならない。

自己評価の基準　A：目標を上回った　B：目標どおりに達成できた　C：目標をやや下回った　D：目標を大きく下回った